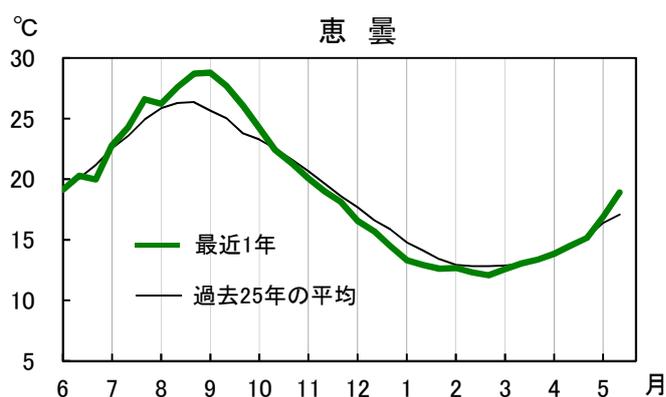
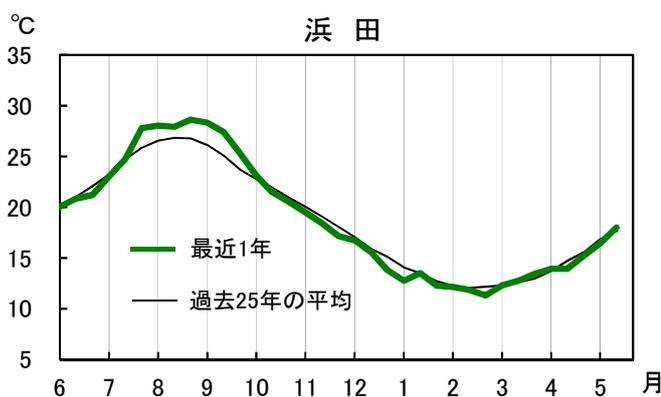




《4～5月の海況》

4月	月平均	平年差	評価
浜田	14.4℃	-0.3℃	平年並み
恵曇	14.4℃	-0.05℃	平年並み

沿岸定地水温は、浜田地区では4月は上旬が「平年並み」、中旬は「やや低め」に転じましたが、下旬以降は5月中旬時点まで「平年並み」で経過しています。恵曇地区では4月は「平年並み」でしたが、5月に入り、上旬が「やや高め」、中旬が「はなはだ高め」経過しています。



《4月の漁況》

【中型まき網漁業】

県西部（浜田地区）ではサバ類、アジ主体の漁況で、1統1航海当りの漁獲量は平年を大きく下回りました。この時期主体となるサバ類は平年並みだったものの、マアジは平年の4割、また、平成22年まで好調だったイワシ類は平成23年を境に漁獲量が低迷し、今年はほぼ漁獲なしとなりました。県東部（西郷地区及び浦郷地区）ではマイワシ、カタクチイワシ、マアジ主体の漁況で、1統1航海当りの漁獲量は平年を上回りました。特にマイワシは、3月に引き続き好調となりました。

【イカ釣漁業】

浜田地区（属地5トン以上）ではスルメイカのみ（全体の100%）の漁況で、1隻1航海あたりの漁獲量は648kgで平年を上回りました。一方、西郷地区（属人5トン以上）でもスルメイカのみ（全体の100%）の漁況で、1隻1航海あたりの漁獲量は124kgで平年を上回りました。

【沖合底びき網漁業】

浜田港ではスルメイカ、ムシガレイ、キダイ主体の漁況でした。1統1航海当たり漁獲量は11.7トンで、平年並みの水揚げとなりました。この時期には水揚げが増加するムシガレイ、ケンサキイカは低調に推移し、平年の7割の水揚げに留まりました。一方、キダイは好調に推移し、平年の1.4倍、アカムツは小型サイズ主体に平年の2倍の水揚げがありました。

【小型底びき網漁業】

久手・和江両地区ともソウハチ主体の漁況で、1隻1航海当たりの漁獲量は、久手地区は平年を上回りましたが、和江地区では平年並みとなりました。両地区ともソウハチ、ニギスが好調で、平年の1.2～1.4倍の水揚げとなりました。一方、キダイ、ムシガレイ、ヒレグロは平年の5～8割の水揚げに留まり、低調に推移しました。また、両地区ともにアナゴ類が平年の3倍の水揚げがありました。

【定置網漁業】

石見地区ではブリ、マアジ、ケンサキイカ主体の漁況で、1統当りの漁獲量は16.8トンとなり、主要魚種が好調であったことから全統の総漁獲量は平年を上回りました。出雲地区ではブリ、マアジ、マイワシ主体の漁況で、1統当りの漁獲量は14.9トンでした。近年漁獲されなかったマイワシが19.3トンと好調だったものの、ブリ、マアジは平年並み、この時期主体となるサワラが5割に留まったため、全統の総漁獲量は平年並みとなりました。隠岐地区ではブリ、マアジ主体の漁況で、1統当りの漁獲量は25.6トンとなり、主要魚種が好調であったことから全統の総漁獲量は平年を上回りました。

【釣・縄】

石見地区ではヒラマサ、ブリ、マアジが主に漁獲され、1隻1航海あたりの総漁獲量は22kgで平年を下回りました。出雲地区ではブリ、ヒラマサが主に漁獲され、1隻1航海あたりの総漁獲量は37kgで平年を下回りました。隠岐地区ではブリ、カサゴ・メバル類、スルメイカが主に漁獲され、1隻1航海あたりの総漁獲量は37kgで平年を上回りました。全地区で漁獲の主体であったブリですが、隠岐地区では平年を上回り（平年比116%）、石見地区（平年比22%）・出雲地区（平年比42%）では平年を下回る漁獲量でした。

【平成 25 年 4 月の漁獲統計】

漁業種類	水揚港	主要魚種	総漁獲量			CPUE(1 隻(統)1航海あたり漁獲量)			漁模様
			漁獲量	前年比 %	平年比 %	漁獲量	前年比 %	平年比 %	
中型まき網	浜田	サバ類、アジ	87トン	79%	18%	8.7トン	94%	40%	▲
	西郷	マイワシ、カタクチイワシ	6,922トン	90%	128%	135.7トン	111%	177%	◎
	浦郷	マイワシ、カタクチイワシ、マアジ	3,899トン	104%	148%	81.2トン	91%	140%	◎
イカ釣り (5トン以上)	浜田	スルメイカ	34トン	1318%	54%	648kg	279%	188%	◎
	西郷	スルメイカ	3トン	-	27%	124kg	-	310%	◎
沖合 底びき網	浜田	スルメイカ、ムシガレイ、キダイ	280トン	131%	91%	11.7トン	126%	95%	○
小型 底びき網	久手	ソウハチ	112トン	67%	66%	830kg	103%	113%	◎
	和江	ソウハチ	264トン	70%	82%	951kg	91%	102%	○
定置網 (大型)	浜田	マアジ、ケンサキイカ	5トン	-	22%	421 kg	-	35%	▲
	美保関	ブリ、スズキ、サワラ	42トン	85%	63%	491 kg	79%	68%	▲
	浦郷	ブリ、マアジ	41トン	197%	259%	1,569 kg	189%	271%	◎
釣り・縄	仁摩	ブリ、マアジ、スルメイカ	4トン	33%	20%	23kg	76%	59%	▲
	大社	ブリ	25トン	87%	44%	50kg	118%	72%	▲
	西郷	カサゴ・メバル類、スルメイカ	4トン	107%	56%	25kg	144%	99%	○

平年比：過去5年（沖底のみ10年）の平均値との比較 漁模様（CPUE）：◎が平年以上、○が平年並み、▲が平年以下

本年の漁獲量が0Kg(ほぼ0Kg)のものは全てを-、前年の漁獲量が0Kg(ほぼ0Kg)のものは前年比を-、平年の漁獲量が0Kg(ほぼ0Kg)のものは平年比を-とした

【ケンサキイカ情報】

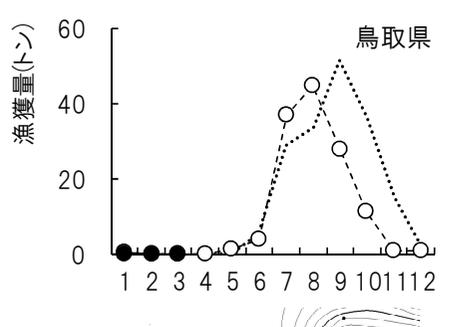
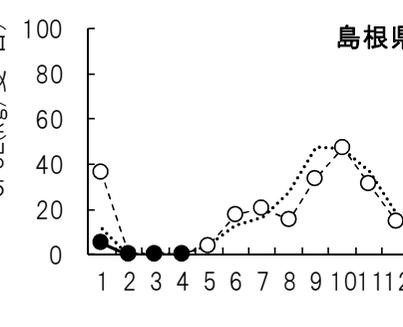
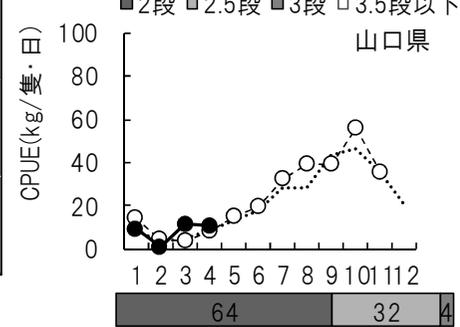
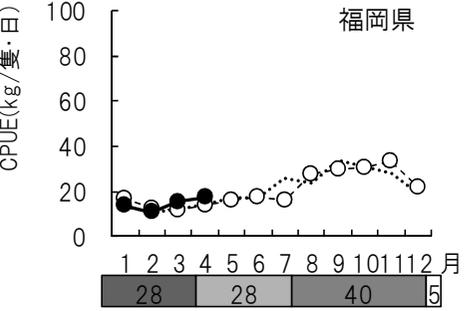
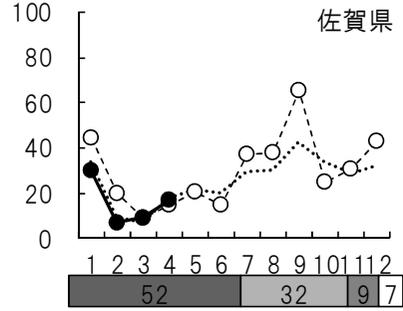
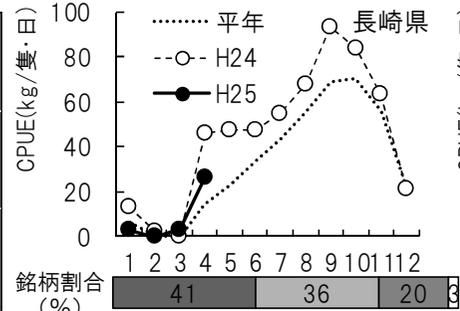
発行日：平成25年5月24日

長崎県、佐賀県、福岡県、山口県、島根県、鳥取県の6県で共同発行しているケンサキイカ(地方名:マイカ、シロイカ)の情報(各地の漁況と底層水温)です。

I：4月のイカ釣り漁況

これらの情報は各県の主要漁港データを利用しています。折れ線グラフは漁獲量もしくはCPUE、棒グラフは銘柄割合を示しています。

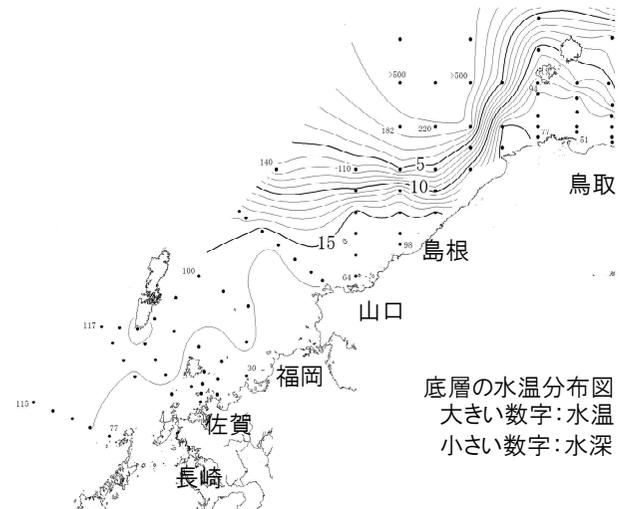
鳥取県	現在の所、鳥取県沖ではほとんど漁獲されていません(4月漁獲量は未集計)。
島根県	イカ釣りでの水揚げはありませんでした。
山口県	漁獲量は不漁であった前年を大きく上回り(前年比297%)、平年並み(平年比95%)でした。
福岡県	代表港の漁獲量は前年比192%、平年比147%で、前年・平年を上回りました。
佐賀県	代表港の漁獲量は、前年を上回り(前年比132%)、平年並み(平年比93%)でした。
長崎県	標本漁協の漁獲量は、前年比38%、平年比71%で、前年・平年を下回りました。



※平年は過去5年(H20～H24)の平均値

II：5月上旬の底層水温

鳥取県	水深100m前後の底層水温は12～14℃でした。
島根県	陸棚上の底層水温は、温泉津沖は2～11℃でかなり低め～平年並み、高山沖は2～15℃ではなはだ低め～平年並みでした。
山口県	見島北沖では10℃以下の冷水が張り出し甚だ低め、その他は13～15℃で平年並み～やや高め。
福岡県	沿岸域の水温は、底層で16℃台と平年並、沖合域の水温は、底層で15～16℃台と平年並み～やや高めとなっています。
佐賀県	対馬東水道の底層水温は、15.3～16.7℃で、平年並み～甚だ高めでした。壱岐水道の底層水温は16.4～16.6℃で平年並みとなりました。
長崎県	五島西沖の底層水温は、17～18℃台でした。



底層の水温分布図
大きい数字：水温
小さい数字：水深